

2019年度秋季卒業式学長告辞（2019年9月25日）

本日、卒業式を迎え、学位記を授与された卒業生、修了生の皆さん、広島市立大学を代表しまして、心よりお祝いを申し上げます。また、卒業生、修了生のご家族の皆様、友人の皆様、そして学生達を指導されました先生方にもお祝いと感謝を申し上げます。本日、学部卒業生9名、大学院博士前期課程修了生3名、博士後期課程修了生1名、論文博士号授与1名を社会に送り出すことができましたことは、大学としても大変、うれしく思います。

学部を卒業した皆さん。皆さんはそれぞれの学問分野の基礎を学び、「学士」の称号を得て、世界に旅立ちます。世界は広く、学問は深く、皆さんが大学で学んだことは、まだまだそのほんの一部に過ぎません。しかしながら、自分はこの世界の新参者なのだけれども戦う武器は持っている、という自覚を持ち、常に学びの気持ちを忘れず、勇気を持って新しい世界に入って行っていくなれば、道は必ず開けます。がんばって下さい。

次に、大学院博士前期課程を修了した皆さん。皆さんは修士号を目指す勉学の過程で、学問とは何か、研究とは何か、ということをおぼろげにも理解したのではないのでしょうか。皆さんがこれからどんな道を歩むにしても、人類の英知の結晶というべき学問を大学院でより深く学んだことは、きっと皆さんの今後の人生に役立つと信じます。これからは、大学院で学んだことを活かしつつ、新しいことに挑戦し、豊かな人生を切り開いて下さい。

最後に大学院博士後期課程を修了、あるいは本学に学位論文を提出することで博士号を授与された皆さん。博士号は学問の研究者として独り立ちできる証です。一方で、研究者の世界では、車の運転に例えれば、博士号取得は初心者が公道を走るための運転免許を得たのと同じとも言えます。ですから、これからどんな道を歩むにしても、博士号を持っているというプライドと同時に、学問に対する謙虚さを忘れず、常に研鑽を積み、自分の学問を武器として、

これからの人生に立ち向かって下さい。

今日、卒業、修了する皆さんは、本学で学んだ教育課程と在籍年数はそれぞれ異なりますが、厳しいこと、つらいこともあった中をがんばって、この晴れの日を迎えたことと思います。世界は今、混沌さを増しており、生き抜くのは必ずしも容易ではないかもしれません。しかし、本学で学んだことに自信と誇りを持って世界に立ち向かえば、道はおのずから開けると私は信じています。世界を舞台にしての皆さんのこれからの活躍を期待しています。

さて、本日、卒業、修了される皆さんに、広島市立大学の学長としてお願いしたいことが1つあります。それは、他の大学ではなくこの広島市立大学を卒業、修了したのだ、ということこそ是非、自覚していただきたいということです。皆さんの出身地はいろいろだと思います。広島市で生まれ育って、本学に入学した学生もいれば、広島市以外の国内から、あるいは遠く海外から本学に入学し、本学で勉学に励んだ学生もいると思います。

在学中、皆さんはいろいろな経験をしたと思います。友人との出会い、先生との出会い、さらには学問や新しい表現との出会い。楽しかったこと、うれしかったこと、あるいは苦しかったこと、悲しかったこと。そうした様々な思い出を大事にしながらも、広島市立大学を卒業あるいは修了した、ということの意味を今一度、考えてほしいのです。

広島市は原爆の惨禍から復興し、120万都市にまで発展してきました。戦後の広島市の原点はやはり1945年8月6日の原爆投下であり、あのときの体験が、広島市がこの広島市立大学を作ることにもつながったのだ、ということこそを卒業、修了にあたって、もう一度、心に刻んでほしいと私は願います。

皆さんは本年4月にリニューアルした広島平和記念資料館を見学されたか。もしまだであれば、可能であれば会社への赴任等で広島市を去る前に、

それが難しければ近いうちに、是非、一度、資料館を訪れて下さい。国際平和文化都市広島の原点となった原爆の惨禍がどのようなものだったのか、その後の広島市の復興はどうだったのか、それが理解できます。

「世界平和に貢献する国際的な大学」。これは本学の建学の基本理念の一節です。本学で学んだ学問分野はそれぞれ違うにしても、世界平和を希求する広島市が設立した大学を卒業あるいは修了したのだ、ということを感じ、自分自身の言葉でヒロシマを世界の人々に伝えて下さい。これが私の願いです。

明日から皆さんは、それぞれが選んだ未来へと旅立っていきます。期待もあるでしょうし、不安もあるでしょう。是非、広島市立大学の卒業生、修了生としての誇りを胸に、勇気を持って自分の信じる道を一步ずつ着実に歩いて下さい。

私の好きな言葉で、「トム・ソーヤーの冒険」や「ハックルベリ・フィンの冒険」で知られる米国の作家マーク・トウェインの言葉を、これから新しい世界に漕ぎ出して行く皆さんに、はなむけの言葉として贈ります。

「二十年後に人は、やったことよりもやらなかったことを悔いるものだ。だから、綱を放ち港を出、帆を揚げ風をとらえて、探検せよ。夢見よ。発見せよ。」
(吉成真由美訳)

皆さんの将来が希望に満ちた明るいものになることを祈念しまして、学長告辞とします。本日はご卒業、ご修了、まことにおめでとうございます。

2019年（令和元年）9月25日
広島市立大学長
若林 真一